

# 「人民元切り上げは

## 中国からの米国向け輸出を減らせるか」

余 淼傑氏(北京大学中国経済研究センター・准教授)

人民元切上げの動向はいまや世界の最大の関心事のひとつになっています。2005年に米ドルに対して切り上げ始めた人民元は、国際金融危機を境目に再びドルに対してペッグ制になったといわれています。そしてついに中国人民銀行は再び人民元の切り上げを容認する姿勢を見せ始めました。米中貿易摩擦がエスカレートする中で、人民元の切り上げは米中間の貿易にどのぐらい効果があったのか、これからはどのような展開を見せていくのか、国際貿易の専門家であり、世界的に活躍している北京大学の新進気鋭の経済学者余淼傑氏を講師としてお招きし、これらの問題に切り込んでいきます。

### 【講師紹介】

余 淼傑氏(YU Miaojie) 北京大学中国経済研究センター(CCER)准教授

中国中山大学経済学院卒、北京大学大学院経済学修士、米国カリフォルニア大学デビス校よりPh.D取得。カリフォルニア大学デビス校講師、香港大学経済金融学院講師、オーストラリア国立大学客員研究員、北京大学国家発展研究院中国経済研究センター(CCER)准教授。研究分野は国際経済学、国際貿易、応用計量経済学、応用ミクロ経済学。関心領域は貿易、政治経済学、WTO、輸出と生産性、中国経済。

主な著書・論文に、『貿易の国際政治経済学』(北京大学出版社、2009年)、“Trade, Democracy, and the Gravity Equation,” *Journal of Development Economics*, 2010, 91(2), “Revaluation of the Chinese Yuan and Triad Trade: A Gravity Assessment”, *Journal of Asian Economics*, 2009, 20, “Labor, Demography, and the Export-Oriented Growth Model in China,” *Journal of Comparative Economic Studies*, forthcoming (with Yang Yao), “The Political Economy of Chinese Price Scissors: Theoretical Model and Empirical Evidence,” with Justin Lin, *Economic Research*, 2009(1), in Chinese, など多数。

【日時】2010年7月5日(月)15:00~16:30

【会場】愛知大学名古屋校舎研究館2階第1会議室

中国語講演、日本語通訳あり、  
一般公開、参加無料、申込不要

司会:高橋五郎・ICCS 所長 通訳:李春利・経済学部教授